

## 第3回

# 「地域のちょっと前の出来事が物語になるまで」

令和5年12月9日(土)

講師：立正大学 文学部 教授 <sup>あさおか</sup>浅岡 <sup>たかひろ</sup>隆裕 氏

第3回目は、佐野市に縁が深い浅岡先生を講師に招き「地域のちょっと前の出来事が物語になるまで」を開講しました。これは各地域の歴史や風土に根差した固有の“物語”の存在にフォーカスされ、旧来はストーリーテラーの語りべ的なものが人々の共同コミュニティを介し、更に写真というビジュアルを加えた新たなストーリーが紡ぎ出されるまでに変容していた。

3事例を紹介から写真が表現媒体の重要キーになっていることを再認識し、また映像を共有することで、個々人の記憶も関連付けされた地域の映像アーカイブに派生し、新たな物語として共感を生んでゆく流れが判りました。

今回のキーワードである「ちょっと前」という時代は、市民生活に密着した写真、映像が記録媒体となる昭和30年代以降を示すものでしたが、今後はデジタルとの連携で高次の地域アーカイブに発展の可能性を持ったものでした。



## ○参加者の感想・意見について（主なもの）

- ・スマートフォンの普及により、画像を残すハードルがとて低くなった。子育て世帯の友人たちのスマートフォンのアルバムには、ほぼ毎日の子供の様子が収められている。それらの画像が将来的に歴史的な資料となっていくと感じた。地域の歴史となると戦国武将の武将や城などを思い浮かべてしまうが、少し前の祖父母の幼い頃の様子など身近なそれにあたることに気づけました。大きく変化した所だけでなく、数十年前の少しずつ変わった歴史も調べてみたいと思った。
- ・ノスタルジア物語、オーラルヒストリーの話、地域遺伝子として学問的に公演を聞き、大変興味深くお聞きしましてとても良かったです。立て板に水のようなお話しぶりに感心しきりでした。さびれた商店街ももう一回考え直して、暖かみのある生き方ができるようやりようがあるのかと考えました。
- ・昭和25年から昭和48年まで佐野に住んでいましたが、今日の講座で昔の佐野の生活を思い出しました。令和4年に佐野に戻って来ましたが市内はほとんど昔と変わっていませんでした。（郊外は発展していました）  
シティプロモーション推進活動については知りませんでした。